令和８年度　霧島市食育推進検討委員会　会議要旨

開催日時	令和８年９月 24 日（木）　14 時 00 分～15 時 20 分
開催場所	霧島市総合保健センター１階集団検診室
出席委員	澤委員、千葉委員、川野委員、上村委員、外山委員、安留委員、錦戸委員、隈元委員、今川委員、古里委員、大森委員
事務局	【健康増進課】野村課長、赤水主幹兼健康づくり推進グループ長、冨吉主幹、溝口主査、徳重主査、酒井主事補 【母子保健課】木原母子保健第１グループ長 【学校給食課】松崎課長 【農政畜産課】淵ノ上主幹兼農政第１グループ長、田中主事

公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	０人

議事

（1）　健康きりしま 21（第４次）計画（第４章）について
分野別の具体的な取組
【健康づくり分野】栄養・食生活改善と食育推進（食育推進計画）

（2）　健康きりしま 21（第５次）に係るアンケート内容について
⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの質問、意見は以下のとおり。

（3）その他

協議結果等の概要　　議：議長　　委：委員　　事：事務局

（1）健康きりしま 21（第４次）計画（第４章）について
分野別の具体的な取組
【健康づくり分野】栄養・食生活改善と食育推進（食育推進計画）
⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの質問、意見は以下のとおり。

委：　子どもの朝食欠食率は依然として高く、目標値 100％では評価が厳しくなるため、今後は現実的な目標設定も必要である。これまでの啓発中心の活動では行動変容に結びつきにくくなっている現状があるため、子どもや保護者が実際に調理などを経験する体験型の食育へ転換する必要があると考えている。特に、若い保護者に対して手間をかけないことがアンケートの中にでていたので、完璧を求めないハードルを下げたアプローチが必要だと考える。

事：　学校や保育園等との連携を進めているが、いただいた意見も参考にしながら、今後の取組を検討したい。

委：　紙やＳＮＳによる発信より、実践型の取組が効果的だと思う。以前、児童生徒を対象に朝食づくりを行ったところ、朝食を食べたときの体調の違いを実感し、自分や家族の朝食を作るようになった子どももいた。

議：　子ども自身が考え、実践する経験は、大人になった時の子どもへの食育にと連鎖していくと考える。

委：　ＮＰＯやボランティア団体による体験型活動には、資材費、人件費、交通費などが必要である。それを団体の持ち出しや善意だけでは継続が難しいため、地域団体が複数年にわたり活動できる柔軟な助成制度を検討していただきたい。

事：　市独自の助成制度はない。市も県の補助金を活用していたが、令和８年度は採択されておらず厳しい状況である。県補助金を財源として市を通じて実施団体に交付する間接補助をしているので、地域団体には、その補助事業の活用していただきたい。

委：　当団体では、文化庁の委託事業や団体の自己負担による子どもの料理講座を実施している。当団体が行う料理講座では、食材費、保険料、会場費などの負担が大きく、年１回しか開催できない。料理体験は子どもの自己肯定感や幸福感にもつながるため、地域団体が活動しやすい仕組みを今後も検討していただきたい。

議：　予算確保は容易ではないが、霧島市の子どもたちの育成のため、何かしらの支援策を検討していただきたいと思う。

委：　資料 15 ページの取組は、項目や事業名のみの記載になっており、活動の全体像や規模が分かりにくいため、内容や参加人数、実施回数などの実績値を記載ください。特に残食率は、給食の満足度、栄養摂取、食品ロスや環境問題への意識が育っているかなどをはかる重要な指標であり、栄養教諭の指導の効果検証にいかしていくべきだと考えている。残食率の年度ごとの推移を分かるように記載をしていただきたい。今、残食率が分かっていれば教えてほしい。

事：　今後、掲載可能なデータの追加を検討する。残食率は、給食センターが令和６・７年度ともに９％、自校方式の単独調理場が令和６・７年度ともに３％である。

委：　残食率は給食時間の短さも影響する。以前、給食時間を５分延長したところ、残食が約３分の１に減りました。給食時間の延長は、残食率の改善に有効だと思う。

議：　ここ 10 年ぐらいで、給食時間を５分程度延ばして 35 分とする学校が増えている。校時表との調整が難しいところもあるが、学校や校長会でも働きかけたいと思う。

（2）健康きりしま 21（第５次）に係るアンケート内容について
⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの質問、意見は以下のとおり。

委：　アンケートについて３点ある。１点目は、資料３の「おふくろの味」は、ジェンダーに配慮して「家庭の味」に変更してはどうか。２点目は、資料３では郷土料理と家庭料理をまとめて説明しているが、問 14-1 では別の選択肢となっているため、違いが分かりにくい。それぞれの意味や区分が明確になるよう、説明と選択肢を整理する必要がある。３点目は、子どもに行いたい食育を尋ねる設問に、食と育だけでなく農業に関する視点も加え、霧島市が進める「食農育」に沿った内容としてはどうか。

事：　１点目の「おふくろの味」については、国の調査票に合わせた表現だが、ジェンダーへの配慮から「家庭の味」への変更を検討する。

議：　２点目の意見について改めて説明ください。

委：　資料３では郷土料理と家庭料理を一緒に説明しているが、問 14-1 では別々の選択肢になっているため、回答者が区別しにくいという指摘である。

委：　地域や料理教室などで受け継いだ料理と、家庭内で受け継いだ料理は異なるため、選択肢を分けることには意義があると思う。

委：　選択肢を統合してほしいのではなく、資料３と設問の説明をどちらかに統一してほしいということである。

委：　選択肢は残し、資料３の説明を補足すれば分かりやすくなる。

委：　資料３で「郷土料理・伝統料理」と「家庭料理」の説明を分ければ、問 14-1 につながりやすくなる。

事：　ご意見を踏まえ、資料３の説明を修正する。

議：　３点目の子どもに行いたい食育を尋ねる設問に農の視点も加えるという意見についてはどうか。

事：　食農育の視点を踏まえ、項目への追加を検討する。

委：　資料２の主食の説明にある「糖質エネルギー」という表現は、主菜や副菜の説明との整合を考え、「炭水化物」に修正してはどうか。

事：　国の調査票と同じ表現としていたが、修正を検討する。

委：　児童生徒向けアンケートには、小学５年生が習っていない漢字や分かりにくい表現があるため、学年に応じて修正してほしい。また、朝食を食べない理由の「太りたくないから」は、朝ごはんを食べないとやせるという誤った行動を促さないよう、「太ると思っているから」などへの変更を検討いただきたい。

議：　小学５年生には、ルビや分かりやすい表現が必要という意見に対してはどうか。

事：　漢字にはルビを付ける予定である。

議：　「太りたくないから」という表現の変更についてはどうか。

委：　「太りたくないから」と「太ると思っているから」という、どちらの回答も考えられるため、現行の選択肢と「その他」で対応できると思う。

議：　受け取り方に違いがあるため、事務局で表現を検討ください。また、対象学年に応じた分かりやすい表現も検討ください。 委：　子どもの口腔機能の発達には、食べ物を前歯でかじとる食べ方が重要である。姶良地区歯科医師会とも連携し、食べ方への働きかけをしていただきたい。 議：　口腔機能の発達を促す食べ方について、第５次計画への反映を事務局で検討ください。 （３）　その他 ⇒特になし	
会議資料	【配布資料】 〇令和８年度食育推進検討委員会資料